

## セクション1

### ラファエル前派の画家・詩人たち

1848年9月上旬、ロンドンの大英博物館に近い大通り、ガウワー・ストリート83番(現在7番)のハントのアトリエが発端だった。ウィリアム・ホルマン・ハント、ジョン・エヴァレット・ミレー、ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ、ウィリアム・マイケル・ロセッティ、ジェームズ・コリンソン、フレデリック・スティーヴンズ、それにトマス・ウールナーの7人の20歳前後の青年芸術家が、アカデミズムの因襲性に反発して、また爆発的に進行する産業主義に前途の廃退を予感して、自然主義と中世主義を理念に掲げた同志愛に結ばれて、彼らなりの理想郷を求めたのだった。

これより5年前、風景画家J.M.W. ターナーを擁護する目的で『近代絵画論』第1巻を世に出していたジョン・ラスキンは、しばしば引用される有名な言葉だが、次のように「自然に帰れ」という理念を表明していた。

純一な心をもって自然に赴き、努力と信頼のうちに自然とともに歩み、自然の意味を洞察する最高の手段をひたすら思考し、何も拒まず、何も選ばず、そして何も蔑まないこと。

そして、これが、ラファエル前派の基本原則を代弁する言説として、若い画家たちの共感を呼んだ。やがて彼らの存在を知ったラスキンは『ラファエル前派主義』(1851)の「序」にこの主張を再録して、彼らを支持する立場を明らかにした。7人はそれぞれの姿勢で時代に対峙し、理念の実現を模索した。ハントはラファエル前派主義の信奉者としておもに宗教的・歴史的テーマのなかに、ミレーはその卓越した描法と才知によって結局はアカデミズムの世界に、ロセッティは多くのしかし同じ類型の驕りある女性の官能美のうちに、それぞれ芸術家としての世界を求めた。1850年代後半になって、ウィリアム・モリスとエドワード・バーン＝ジョーンズという強力な共鳴者を獲得したことによって、ラファエル前派は第2の段階を迎え、あらたな重要な展開をみせた。しかし世紀末にはそれも終息にむかった。運動としては結束性にもしばしば欠け、短命だったにもかかわらず、アーツ・アンド・クラフツ運動や象徴主義につながる大きな影響を後世に与えた。

ロンドンのガウワー・ストリートから始まったラファエル前派活動は、市内の各所を舞台にしながら、オックスフォードシャー州の領主館、スコットランドの溪谷の小村、ヨーロッパの諸都市、あるいは遠くエルサレムの死海のほとり、アイスランドのレイキャビック、オーストラリアの金鉱にまで、それぞれが遠く広く、時には挫折に抗しながら理念の成就に努めたのだった。

セクション1では上記9人に、ただし結成時のメンバーであっただけで、結びつきの希薄であったJ.コリンソンを除いて、ラファエル前派の「生みの親」ともいえるジョン・ラスキンを加えた。

次頁以下の解説末尾の(F.〇〇)はW.E.フリードマン『ラファエル前派主義 - 批評的書誌研究』に記載された図書分類番号である。

1 ジョン・ラスキン『ラファエル前派主義』スミス、エルダー 1851刊 初版

**Ruskin, John**

**Pre-Raphaelitism/by the author of Modern painters. London ; Smith, Elder, 1851. 68p. ; 22cm**

本書は小冊ながら若いラファエル前派の芸術家たちの理念を代表・代弁した書として有名。「序」には『近代画家論』(1843)で述べられた若いイギリス画家への助言「自然に帰れ」という理念が繰り返えされた。続けて「この助言の良し悪しは別にして、その実践には際限ない努力と屈辱がつきまとった。そのため助言は大方うけ入れられなかった」、「しかし、ようやくこの助言が一青年グループによって一言一句忠実に実行された」と記した。なお本展では本書の翻訳(御木本隆三訳、使命社、1931.展示 No. 2)をあわせて展示した。

2 ジョン・ラスキン著 御木本隆三訳『ラファエル前派主義』使命社/東京ラスキン協会 1931刊

**Ruskin, John**

ラファエル前派主義/ジョン・ラスキン著;御木本隆三訳 東京;東京ラスキン協会, 1931. 78p.; 31cm 和装

ラファエル前派が「自然に帰れ」を標榜する拠り所となったラスキン1851年の *Pre-Raphaelitism* の邦訳。原典は本展展示書 No. 1

3 ジョン・ラスキン『イギリス美術6講』ジョージ・アレン 1884刊

**Ruskin, John**

**The Art of England: lectures given in Oxford/by John Ruskin. Orpington ; G. Allen, 1884. 292p. ; 25cm**

ラスキンが1879年から84年までオックスフォード大学の初代スライド美術講座教授の職にあったときの講義集。絵画の写実派(ロセッティ、ハント)、絵画の神秘派(バーン=ジョーンズ、ワッツ)、絵画の古典派(レイトン、アルマ・タデマ)など6講を所収。(F.45.2)

4 ジョン・ラスキン『講演集、建築と絵画』スミス、エルダー 1854刊 初版

**Ruskin, John**

**Lectures on architecture and painting, delivered at Edinburgh in November, 1853/by John Ruskin ; with illustrations drawn by the author. London ; Smith, Elder, 1854. vi, 239p., 16 leaves of plates : ill. ; 20cm**

ラスキンが1853年11月エジンバラで同市の市民を対象に行った4回の講演を所収。第四話はラファエル前派主義について。「300年この方教授されつづけてきた美術論は本来的にあやまりであり、われわれの指針となるべきはラファエル以前に行われていた原理原則である」と明言した。

5 D.G. ロセッティ『浄福の天女』T.B. モッシャー 1905刊

**Rossetti, Dante Gabriel**

**The Blessed damozel/by Dante Gabriel Rossetti. 3rd ed. Portland, Me. ; T.B. Mosher, 1905. xiii, 32p. : ill. ; 15cm. "A reprint of the original text taken from The Germ, mdcccl, including all variants from The Oxford and Cambridge Magazine, mdccclvi ; Poems, mdccclxx, and the Collected works, mdccclxxxvi."**

1850年『ジャーム』(展示 No. 102)に発表された詩。本書はその50年版の再録版だが、1856年版(『オックスフォード・アンド・ケンブリッジ・マガジン』)、1870年版(『詩集』)、1886年版(『D.G. ロセッティ 著作集』)(展示 No.

9)の各異文を併記したもの。主題は死後も若い恋人同士が再会できるというロマンチックなものだが、これは当時流行していた心霊術にも影響された主題であった。邦訳には蒲原有明訳「天津郎女」(1928)がある。

6 D.G. ロセッティ『生命の家』エリス・アンド・エルヴェイ 1898刊

Rossetti, Dante Gabriel

**The House of life: a sonnet-sequence/by Dante Gabriel Rossetti; with prefatory note by W.M. Rossetti. London; Ellis and Elvey, 1898. 118p.; 16cm (The Siddal edition)**

ウィリアム・マイケル・ロセッティによる解題をかねた序文付き。序文中、このソネット連作はダンテ・ゲイブリエル・ロセッティの「ライフ・ワーク」であると評して、詩人の1847年ころ(19歳ころ)から81年ころ(52歳ころ)までの実人生における重大な出来事と心情を具現した作だからだ、と述べた。ロセッティの詩には絵画においても、たとえ愛と理想主義に一貫してかわかっていても、性がすみずみにまで浸透している。R. ブキャナンによって「肉感派」を代表する詩として『生命の家』は「淫売宿」だと決めつけられた。(展示 No. 76)

7 D.G. ロセッティ訳・挿画『新生』ジョージ・ラトレッジ 1907頃刊

Dante Alighieri

**La Vita Nuova=The new life/by Dante Alighieri; translated and illustrated by photogravures after paintings by Dante Gabriel Rossetti. London; G. Routledge, [19--?]. 103p., 8 leaves of plates: ill.; 22cm (The Photogravure and colour series)**

ダンテ・アリギエーリの『神曲』とならぶ代表作を「原点の意味に忠実であるとともに自由な明快な形に翻訳することをひたすら願って」なされた仕事。『新生』は、ダンテ18歳のときに9年振りに再会したベアトリーチェ(恵みを与える女)に寄せる清純な愛を謳ったソネットを中心に散文を混交した詩文集。

8 D.G. ロセッティ『バラッドとソネット』エリス・アンド・ホワイト 1881刊 初版

Rossetti, Dante Gabriel

**Ballads and sonnets/by Dante Gabriel Rossetti. London; Ellis & White, 1881. xii, 335p.; 20cm**

「ローズ・メアリ、1, 2, 3部」他2篇のバラッドとソネット連作「生命の家」他小品を所収。装丁は詩人自身による。(F.23.12)

9 W.M. ロセッティ編『ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ著作集』全2巻 エリス・アンド・スクラットン 1886刊

Rossetti, Dante Gabriel

**The Collected works of Dante Gabriel Rossetti/edited with preface and notes by William M. Rossetti. London; Ellis and Scrutton, 1886. 2v.; 20cm. V. 1 Poems, prose—tales and literary papers. V. 2 Translations, prose—notices of fine art**

全集ではないが、未発表の作品を多数所収した貴重な選集。初版は1861年。第1巻は代表作ソネット連作「生命の家」をはじめ、イタリア語、フランス語などの詩篇をふくむ。第2巻は1861年刊行の『初期イタリア詩人たち』を『ダンテとその仲間—ダンテ以前のイタリア詩人を併せて』と改題、再編した。(F.23.13)

10 D.G. ロセッティ『浄福の天女』T.N. ファウリス 19--年頃

Rossetti, Dante Gabriel

**The Blessed damozel/by Dante Gabriel Rossetti. London; Edinburgh; T.N. Foulis, [19--]. 44p., 3**

leaves of plates : col. ill. ; 18cm

表題詩は死後も若い恋人同士が再会できるという主題をもつこの有名な詩の初出誌は『ジャーム』(1850) (展示 No. 102)。他にも異本があるが、本詩集は初版本に拠る。他に短詩20篇を所収。水彩挿絵はポール・ウッドロフ。

11 T.G. ヘイク『寓話と童話詩』チャップマン・アンド・ホール 1872刊 初版

Hake, Thomas Gordon

Parables and tales/by Thomas Gordon Hake ; with illustrations by Arthur Hughes. London ; Chapman and Hall, 1872. 98p., 1 leaf of plates : ill. ; 19cm

「母と子」、「盲目の少年」、「スズラン」、「詩人」など8篇を所収。装丁はロセッティ、挿絵はアーサー・ヒューズ(1832-1915)。ヒューズは『4月の恋』で人気のある画家だが、『ジャーム』(展示 No. 102)を読んで、ラファエル前派に共鳴した。ヒューズには同派の影響を思わせる油彩のほか、クリスティーナ・ロセッティ『もの言う肖像画』(展示 No. 59)、テニソン『イーノック・アーデン』などに付した挿絵ほか、挿絵作品も多い。

(武蔵大学図書館研究情報センター特別図書) (F.48.6/93.33)

12 J.C. トロクセル編『ロセッティ家の3きょうだい - ダンテ・ゲイブリエル、クリスティーナ、ウィリアムによる、あるいは宛ての未公開書簡集』ハーヴァード・ユニヴァーシティ・プレス 1937刊 初版

Troxell, Janet Camp (ed.)

Three Rossettis : unpublished letters to and from Dante Gabriel, Christina, William/collected and edited by Janet Camp Troxell. Cambridge, Mass ; Harvard University Press, 1937. 216p., 12 leaves of plates : ill. ; 26cm

本書で特に興味深いのはロセッティ宛のハント、ベル・スコット、ラスキン、およびチャールズ・オーガスタス・ハウエルの書簡群とロセッティが母親に宛てた書簡。ことにラファエル前派の疫病神といわれたハウエルとロセッティが交わした、シダルの墓の発掘に関わる書簡は、同派にまつわる伝説的事件の経緯を多少とも明かす意味できわめて興味深い。解題付き。

(F.24.18)

13 G.B. ヒル編『ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティからウィリアム・アリンガムへの書簡、1854～1870』T.F. アンウィン 1897刊 初版

Rossetti, Dante Gabriel

The Letters of Dante Gabriel Rossetti to William Allingham, 1854-1870/edited by George Birkbeck Hill. London ; T.F. Unwin, 1897. xxviii, 307p., 12 leaves of plates : ill. ; 23cm

1854年春から1870年11月までの書簡65通を所収。各書簡に編者による注記がある。W. アリンガムはアイルランド、ドネゴール州バリシャノン出身の詩人で、1860年代前半ロセッティ、ついでラファエル前派の画家たちと知り合った。

(F.24.6)

14 ジョン・バイソン編『ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティとジェイン・モリス書簡集』オックスフォード・クラレンドン・プレス 1976刊 初版

Rossetti, Dante Gabriel

Dante Gabriel Rossetti and Jane Morris : their correspondence/edited with an introduction by John Bryson ; in association with Janet Camp Troxell. Oxford, Eng. ; Clarendon Press, 1976. xx,

219p. ; 25cm

ロセッティのジェイン宛書簡114通、ジェインからロセッティ宛書簡38通その他を所収。ロセッティの油彩・素描作品の図版多数のほか、巻末に関係人物および場所の写真を資料として付す。

15 ホール・ケイン『ロセッティ回想』カッセル 1928刊

**Caine, Hall, Sir**

**Recollections of Rossetti/by Hall Caine. London ; Cassell, 1928. x, 259p. ; 19cm**

ロセッティ晩年の親友だった H. ケイン(1853-1931)による誠心の回想記。「ロセッティが死の病に囚われた時、私は毎日 ーほとんど一日中、しばしば一晩中、彼につきっきりでした。友は私の腕の中で息を引き取りました」と「序」に記している。後半生「悲劇の人」だったロセッティの死は「荒海を避けて、帆を降ろし、船着場に静かに入ってくる船のように、肉体と精神がゆっくり休息の底に沈んでいく、ゆるやかな死際であるはず」と著者は考えていた。(F.25.1)

16 ホール・ケイン『わが生涯の記』ハイネマン 1908年

**Caine, Hall, Sir**

**My story/by Hall Caine. London ; Heinemann, 1908. xii, 406p. ; 19cm**

H. ケイン(1853-1931)は小説家・劇作家でロセッティの晩年の友人。本書はケインが『ロセッティ回想』(1882)(展示 No. 15)に大幅な改訂を施し、自叙伝としてあらためて一書にまとめ、その第二部にロセッティとの交遊録を取めた。(F.25.1)

17 デズモンド・マッカーシ『肖像』パトナム 1931刊 初版

**MacCarthy, Desmond**

**Portraits/by Desmond MacCarthy. London ; Putnam, 1931. xii, 293p. ; 22cm**

著者デズモンド・マッカーシ(1878-1952)はジャーナリスト・批評家として本書以外にも『評論集』(1932)、『レズリー・スティーヴン』(1937)、『ショー』(1951)など多数の著書があるが、ブルームズベリー・グループの一員としても知られる。本書はイギリス内外の各分野の著名人34人の人物像を描いたもの。「ロセッティとホール・ケイン」、「ラスキン」を所収。(F.25.79)

18 ヴァージニア・サーティーズ編著『ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ(1828-1882)全絵画・素描ー  
解題付類別目録』全2巻 オックスフォード・クラレンドン・プレス 1971刊 初版

**Surtees, Virginia**

**The Paintings and drawings of Dante Gabriel Rossetti (1828-1882): a catalogue raisonne/by  
Virginia Surtees. Oxford ; Clarendon Press, 1971. 2v. ; 30cm**

第1巻は解題。第2巻は図版で3部構成。1.油彩・水彩・素描を制作年順に配列 2.肖像 3.戯画的素描 全504点を所載。現在までのところロセッティの作品に関するもっとも包括的かつ詳細な分類目録である。知られているロセッティの処女作品は6歳のときのエンピツ画で、母親の筆跡による'1834'の文字が記されている。

19 ウィリアム・モリス『地上楽園』F.S. エリス 1871刊

**Morris, William**

**The Earthly paradise: a poem/by William Morris. London ; F.S. Ellis, 1871. 4v. : ill. ; 20cm. Part  
1-2: 6th ed. ; Part 3: 4th ed. ; Part 4: 2nd ed**

「序」および24の物語からなる全42000行の長詩。疫病のため故郷を追われた人々が伝説の「地上楽園」を求めて彷徨の果て、ギリシャ文明の残る小都市を発見。そこで市民と避難民とが交互に古代と中世をたたえる物語をするという結構。タイトル・ヴィネットはモリスによる木版画。展示書4冊は1871年刊だが、第1部「春」および、第2部「夏」は第6版、第3部「秋」は第4版、第4部「冬」は第2版である。

20 ウィリアム・モリス『ユートピア便り、憩いの一時代』リーヴィズ・アンド・ターナー 1891刊  
**Morris, William**

**News from Nowhere, or, An epoch of rest: being some chapters from a utopian romance/by William Morris. London; Reeves & Turner, 1891. 238p.; 20cm**

モリスの表明する社会主義の諸要求が実現されたときの社会のヴィジョンを提示する書として執筆されたが、もともと社会主義者同盟の機関誌で、モリス自身が編集を手がけていた『コモンウィール』誌に連載されたもの。巻頭を飾るケルムスコット領主館の木版画が有名。  
(F.43.17)

21 G.D.H. コール編『モリス著作集』ナンサッチ・プレス 1946刊

**Morris, William**

**Stories in prose; Stories in verse; Shorter poems; Lectures and essays/by William Morris; edited by G.D.H. Cole. Centenary ed. London; Nonesuch Press, 1946. xxiv, 671p.; 20cm**

「ユートピア便り」、「ジョン・ポールの夢」など社会主義宣伝の散文による物語。『地上楽園』（展示 No. 19）の序にあたる「彷徨する人々」他の物語詩、短詩、論考、講演などを所収。  
(F.43.23)

22 ウィリアム・モリス『世界の涯での泉』ケルムスコット・プレス 1896刊 初版

**Morris, William**

**The Well at the world's end/by William Morris. Hammersmith; Kelmscott Press, 1896. 496p.: ill.; 29cm. Original limp vellum binding**

1891年モリスはテムズ川中流のハマースミス、アパー・モルにケルムスコット・プレスを設立した。この印刷所から98年まで（モリスの死は96年）に美麗私家版53点66巻がわずか3台の手動印刷機で刊行された。上記刊本は死去の7ヶ月前96年3月2日（奥付日付）に完成したもの。大型4折本。504頁。手漉き紙刷、黒赤二色刷り、チョーサー活字。バーン＝ジョーンズによる木版挿絵4葉を所収。350部。ほかにヴェラム刷り8刷。これはケルムスコット・プレスの『ジェフリー・チョーサー著作集』（1896）に次ぐ大型版である。

（武蔵大学図書館研究情報センター貴重書）

23 ウィリアム・モリス『イアソンの生と死』ケルムスコット・プレス 1895刊

**Morris, William**

**The Life and death of Jason, a poem/by William Morris. Hammersmith; Kelmscott Press, 1895. 353p.: ill.; 30cm. Original limp vellum binding**

モリスの死の前年1895年5月25日（奥付日付）に完成。大型4折本。ケルムスコット・プレスの『ジェフリー・チョーサー著作集』（1896）に次ぐ大型版。368頁。トロイ活字を用い、黒赤の二色刷り、木版口絵と挿絵二葉はバーン＝ジョーンズ。200部。ほかにヴェラム刷6部。  
(武蔵大学図書館研究情報センター貴重書)

24 ウィリアム・モリス『キューピッドとプシュケーの物語』全2巻 クローバー・ヒル・エディションズ 1974刊 270部限定のうち79番

**Morris, William**

**The Story of Cupid and Psyche/by William Morris ; with illustrations designed by Edward Burne-Jones, mostly engraved on wood by William Morris ; the introduction by A.R. Dufty. London ; Clover Hill Editions, 1974. 2v. : ill. ; 36cm. "This publication ... Consists of : 130 copies, numbered I-CXXX, each with a portfolio containing a set of collotype prints of the 47 original 'Cupid and Psyche' drawings and a set of proofs of the 44 wood-engravings. 270 copies numbered 1 to 270. 100 portfolios numbered I to c, each containing a set of proofs of the wood-engravings." No. 79**

モリスの『地上楽園』(展示 No. 19) にバーン=ジョーンズとの共同制作で挿絵を付した美麗本刊行の計画が1864年と68年の間にケルムスコット・プレスで立てられた。しかしこれは着手されたものの実現しないまま終わった。本書は『地上楽園』の中の表題詩にバーン=ジョーンズの挿絵をモリスが木版画に制作した44点を所収、80年近い過去の計画を実現した限定出版(270部)である。第1巻は解題(A.R. デュフティ)と巻末にモリスの下絵多数をおさめ、第2巻が挿絵入り詩集となっている。書体はケルムスコット・トロイ活字。

(蛭川久康氏所蔵)

25 フィリップ・ヘンダースン『ウィリアム・モリス - 生涯と作品と友人』マックグロー=ヒル 1967  
刊 初版

**Henderson, Philip**

**William Morris : his life, work and friends/Philip Henderson ; foreword by Allan Temko. New York ; McGraw-Hill, c1967. 388p. : ill., Facsims., ports. ; 25cm**

J.W. マッケイルが『モリス伝』(1899)(展示 No. 27)で打ち出した一種超俗的なモリス像に修正を加えた大冊の伝記。未刊資料を最大限に活用した点、ことにロセッティがモリスの妻、ジェインに宛てた手紙の活用は劃期的であった。それはジェインの娘メイが大英博物館に、ジェインの死後50年間公開はしない約束で遺贈された書簡のはじめての公刊であった。表紙はモリスによるチンツ<ジャコウソウモドキ>、見返しは表裏とも壁紙<マリゴールド>。

26 J.B. グレイジア『ウィリアム・モリスと初期社会主義運動』ロングマンズ、グリーン 1921刊  
初版

**Glazier, J. Bruce**

**William Morris and the early days of the socialist movement : being reminiscences of Morris' work as a propagandist, and observations on his character and genius, with some account of the persons and circumstances of the early socialist agitation/by J. Bruce Glasier ; with a preface by May Morris. London ; Longmans, Green, 1921. ix, 173p., 2 leaves of plates : ports. ; 19cm**

多様な相貌をもつモリスの仕事のなかで、彼は1880年前後から社会主義の唱導に献身したが、その時期の活動を時代背景と関係者を通して描出した一書。序文を書いた娘のメイ・モリスは「私にとってはグラスゴーで父がスコットランドの社会主義の同志と面識をもった『夜明けのグラスゴー』が一番興味深い部分です」と記している。  
(F.43.85)

27 J.W. マッケイル『ウィリアム・モリス伝』全2巻 ロングマンズ、グリーン 1912刊

**Mackail, John William**

**The Life of William Morris/by J.W. Mackail. London ; Longmans, Green, 1912. 2v. : ill., plates., port ; 16cm (Longmans' pocket library)**

本書の出版はモリス没後3年の1899年であった。終生の友であったバーン＝ジョーンズ夫妻が娘婿のマッケイ  
ルに依頼して書かせた伝記である。「事実の誤認、隠蔽にもかかわらず……なお基本的伝記」(フリードマン)  
であるが、ここには一種超俗的なモリス像が描出されている。(F.43.45)

28 エイマー・ヴァランス『ウィリアム・モリスーその芸術と著作と公生活』スタジオ・エディシ  
ョンズ 1989刊

Vallance, Aymer

**William Morris: his art, his writings and his public life, a record/by Aymer Vallance. London; Studio Editions, 1989. x, 462, 52p.: ill. (some col.), port.; 28cm. Facsim. of: 1st ed. London: Bell, 1897**

著者はモリスの友人。本書の初版はモリスの死の翌年1897年にジョージ・ベルから公刊された。モリスの死の  
直後という事情もあって、モリスの私生活は意識的に排除されている。書名の「公生活」はそのことへの暗示  
である。詩人、画家以外に、美術工芸家、造本芸術家という側面に力点がおかれた一書。巻末にモリス全作品  
の詳細な一覧が付く。(F.43.38)

29 セバ스티アン・エヴァンズ訳『聖なる聖杯の物語』全2巻 J.M. デント 1898刊 初版

Evans, Sebastian (tr.)

**The High history of the Holy Graal/translated from the French by Sebastian Evans. London; J. M. Dent, 1898. 2v.: ill.; 18cm**

中世のロマンス伝説として名高いアーサー王伝説中の聖杯をめぐる円卓の騎士の武勇伝。巻頭に付された図版  
はエドワード・バーン＝ジョーンズによる木版。限定250部のうち第178番。

30 E.C. バーン＝ジョーンズ『ロマンスと奇跡を描く』R.H. ラッセル 1902刊 初版

Burne-Jones, Edward Coley, Sir

**Pictures of romance and wonder/by Sir Edward Burne-Jones. New York; R.H. Russell, 1902. 1v. (unpaged): ill., ports.; 36cm**

全43葉のバーン＝ジョーンズによる木版を所載。モリス、ロセッティ、シェリー、チョーサー、マロリーな  
ど、画家の神秘主義的画風を顕著に示す小画集。F. キャリントンの序文を付す。(F.42.3)

31 マルコム・ベル『サー・エドワード・バーン＝ジョーンズー人と作品』ジョージ・ベル 1898刊  
Bell, Malcolm

**Sir Edward Burne-Jones: a record and review/by Malcolm Bell. 4th ed. London; G. Bell, 1898. xii, 151p., 100 leaves of plates: ill.; 21cm**

バーン＝ジョーンズの生涯を辿りながら、作品解題と鑑賞を試みる。巻末に 1.完成作品の一覧 2.未完作品  
の一覧 3.スタンド・グラス制作の一覧がつく。図版多数。(F.42.16)

32 A.M. サーケル『三つの屋敷』オックスフォード・ユニヴァーシティ・プレス 1931刊 初版

Thirkell, Angela Mackail

**Three houses/by Angela Thirkell. London; Oxford University Press, 1931. 133p., 3 leaves of plates; 20cm**



著者アンジェラ・マッケイル・サーケルはバーン＝ジョーンズの孫で、文才にも恵まれていたアンジェラが、生涯の記憶に残る3ヵ所の屋敷を主軸に綴った回想記。祖父については言うまでもないが、モリス、ホルマン・ハント、ウィリアム・アリングガムなどへの言及が多い。(F.42.104)

33 E.C. バーン＝ジョーンズ『天地創造 - 全25図』ロングマンズ、グリーン 1902刊 初版

Burne-Jones, Edward Coley, Sir

**The Beginning of the world: twenty-five pictures/by Edward Burne-Jones. London; Longmans, Green, 1902. 23p.: ill.; 31cm**

バーン＝ジョーンズとモリスとの幸福な共同作業はよく知られているが、本25点のバーン＝ジョーンズによる挿絵はケルムスコット・プレスで企画されながら陽の目を見ることがなかったもの。画家の妻、ジョージアーナが序文を付している。(F.42.4)

34 レディ・フランシス・ホーナー『記憶に残る時』ハイネマン 1933刊 初版

Horner, Frances, Lady

**Time remembered/by Frances Horner. London; W. Heinemann, 1933. xvi, 237p., 17 leaves of plates: ill., ports.; 23cm**

スコットランドの名家に生まれた著者(旧姓フランシス・グレアム)は幼時よりヴィクトリア朝の著名人と面識をもち、友人G. バーミングガムに求められて、その人生でめぐり逢った人々の面影を伝えた。序文を書いたG. バーミングガムは「本書の価値は、文体の魅力とは別に、ラファエル前派についての多くの記述があることである」と評している。エドワード・バーン＝ジョーンズ、D.G. ロセッティへの言及が多い。(F.42.108)

35 W.H. ハント「ラファエル前派兄弟団 - 芸術のための闘い」『現代批評』1886年4月、5月、6月に掲載された3部からなる論文 展示書は同上誌1886年1～6月号の合本 イビスタ 1886刊

Hunt, William Holman

**The Pre-Raphaelite Brotherhood: a fight for art/by W. Holman Hunt. London; Isbister, 1886. p. 471-488, 737-750, 820-833; 25cm (An article published in "The Contemporary review" Vol. 49 January-June, 1886)**

著者はラファエル前派をめぐるさまざまな所説が行なわれていた事情をふまえて、「真実」を伝えるべく、「きわめて明白、素朴に、修辭や誇張をぬきにして」この一文を草した、とその意図を述べている。(F.36.2)

36 W.H. ハント『オックスフォード大学学生会館(現図書館)における1857年-8年-9年の壁画および天井装飾の共同制作をめぐって』オックスフォード・ユニヴァーシティ・プレス 1906刊

Hunt, William Holman

**The Story of the painting of the pictures on the walls and the decorations on the ceiling of the old debating hall (now the library) in the years, 1857-8-9/by W. Holman Hunt. Oxford; Oxford University Press, 1906. 15p., 12 leaves of plates: ill.; 38cm. "Of this edition, 325 copies have been printed, of which 300 are for sale" No. 52**

アーサー王伝説を題材にしたこの壁画共同制作は、ラファエル前派の画家たちの理想を求めた創作行為だった。しかし、現在、壁画の褪色が甚だしく、人物像などの判定もしがたい。限定325部印刷のうち300部が販売され、本書はその52番。(F.79.3)

37 D.H. ハント『ふたりの祖母と私』ハミッシュ・ハミルトン 1960刊 初版

Hunt, Diana Holman-

**My grandmothers and I/by Diana Holman-Hunt. London ; Hamilton, 1960. ix, 208p., 7 leaves of plates : ports. ; 23cm**

W.H. ハントの孫娘が著した祖父母についての、ことに画家の二人目の妻となったイーディス・ウォーを中心に読み物風に綴られた回想記。画家は裕福な薬屋の娘ファニー・ウォーを最初の妻とするが(1865年12月)、ファニーは結婚の翌年産褥熱で死亡してしまう。10年後画家はファニーの妹、イーディスと再婚した。著者ダイアナは祖父ホルマン - ハントについても1969年に伝記を著わし、アニー・ミラーの存在をはじめて明らかにした。(F.36.71)

38 H.D. レズリー『わたしに歌える愛唱歌』キャッセル・ペター・アンド・ガルピン 1865頃刊 初版

Leslie, Henry David

**Little songs for me to sing/the illustrations by J.E. Millais ; engraved by Joseph Swain ; with music composed by Henry Leslie. London ; C. Petter & Galpin, [1865?]. 30p. : ill., music ; 18 x 18cm**

少女向きの小曲6曲を挿絵入りで編んだ一書。作曲はヘンリー・レズリー。挿絵はミレー。(F.95.46)

39 J.G. ミレー『サー・ジョン・エヴァレット・ミレー - 生涯と書簡』全2巻 メッシュエン 1900刊  
Millais, John Guille

**The Life and letters of Sir John Everett Millais, president of the Royal Academy/by John Guille Millais. 2nd ed. London ; Methuen, 1900. 2v. : ill., ports. ; 25cm**

書簡を中心にロイヤル・アカデミーの会長をつとめ、富と名声をえた画家の生涯を辿る。第2章は「ラファエル前派主義、その意味と展開」と題されている。巻末にこの画家の作品の詳細な一覧を付す。(F.37.52)

40 M.H. スピールマン『ミレーとその作品』ウィリアム・ブラックウッド 1898刊初版

Spielmann, Marion Harry

**Millais and his works : with special reference to the exhibition at the Royal Academy 1898/by M. H. Spielmann. Edinburgh ; W. Blackwood, 1898. 190p. : ill., ports ; 21cm. With a chapter "Thoughts on our art of to-day" by J.E. Millais.**

ミレーの没後2年、1898年にロイヤル・アカデミーで開催された『ミレー回顧展』のために執筆された解説書をかねた一書。ヴィクトリア朝の偉大な画家、上記アカデミーの会長も務めた画家へのオマージュ。ミレーによる「現代イギリス美術に寄せて」の1文のほか、展示作品の詳しい解説、展覧会の意義、画家の油彩・版画一覧、ミレーの肖像画などを所収。(F.21.26)

41 メアリー・ラチャンズ『ミレーとラスキン夫妻』ジョン・マレー 1967刊

Lutyens, Mary

**Millais and the Ruskins/by Mary Lutyens. London ; J. Murray, 1967. xiii, 296p., 8 leaves of plates : ill. ; 23cm**

ラスキン夫妻の「成就されなかった結婚」と破綻、社会的な好奇心の視線の中で誕生したミレー夫妻。1853年の奇妙な4人のスコットランド旅行で、ミレーはグレンフィンラス溪谷に立つラスキン像を描くが、同じ旅行中にラスキン夫人、エフィの愛らしい肖像《ジキタリスの花を髪に飾るエフィ》を描いた。この間の事情を残され

た書簡を資料にその真実の経過に迫ろうとする。同女史の『ヴェネツィアのエフィ』の姉妹篇。

42 W.M. ロセッティ編『ジョン・キーツ詩集』ウォード、ロック 1880年頃刊

**Keats, John**

**The Poetical works of John Keats/edited, with a critical memoir, by William Michael Rossetti; illustrated by Thomas Seccombe. London; Ward, Lock, 1880. xxiii, 406p. 7 leaves of plates: ill., ports.; 20cm (Moxon's popular poets)**

モクソン版愛唱詩歌集シリーズの一冊として、W.M. ロセッティがT. セクームの挿絵とともに、キーツの有名主要作品を一書にまとめたもの。

43 W.M. ロセッティ『ジョン・キーツ伝』ウォルター・スコット 1887刊 初版

**Rossetti, William Michael**

**Life of John Keats/by William Michael Rossetti. London; W. Scott, 1887. 217, xi p.; 18cm (Great writers)**

大作家評伝叢書の1冊としてウィリアム・マイケル・ロセッティが書き下ろしたキーツの伝記。巻末に詳細な書誌がつくが、詩人が各種の雑誌に載せた詩、評論の一覧が有益でもあり、興味深い。

44 W.M. ロセッティ編『ジョン・ミルトン詩集』E. モクソン 1870年頃刊 初版

**Milton, John**

**The Poetical works of John Milton/edited, with a critical memoir, by William Michael Rossetti; illustrated by Thomas Seccombe. London; E. Moxon, 1870. xx, 460p., 6 leaves of plates: ill.; 20cm**

「失樂園」、「樂園回復」、「コーマス」、「サムソン・アゴニステス」、などミルトンの代表作のほか、多数の小品、翻訳詩、ラテン語詩などを所収。挿絵はT. セクーム。

45 W.M. ロセッティ編『ラスキン、ロセッティ - 書簡によるラファエル前派主義、1854~1862』  
ジョージ・アレン 1899刊 初版

**Rossetti, William Michael (ed.)**

**Ruskin: Rossetti: Preraphaelitism: papers 1854 to 1862/arranged and edited by William Michael Rossetti. London; G. Allen, 1899. xxi, 327p., 11 leaves of plates: ill.; 20cm**

ラスキン、ロセッティを中心にラファエル前派とその周辺人物間でとりかわされた書簡全158通を所収。ほかにブラウンの日記(1854-1855)の抄録を含む。(F. 72.6)

46 R.D. ウォラー 『ロセッティ家 - 父と子供たち、1824~1854』マンチェスター・ユニヴァーシティ・プレス 1932刊 初版

**Waller, Ross Douglas**

**The Rossetti family, 1824-1854/by R.D. Waller. Manchester; Manchester University Press, 1932. xii, 324p.: ill.; 26cm**

ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティの父、ガブリエーレ・ロセッティの後半生、つまりイタリア、中部アドリア海に面するヴァストの町からロンドンに移り、ハイゲート墓地に埋葬されるまでの30年間を辿りながら、4人の子供たち、マリア、ダンテ・ゲイブリエル、ウィリアム・マイケル、クリスティーナの間模様を軸にイ

タリア亡命者一家の肖像を活写した労作。

(F.26.10)

47 W.M. ロセッティ『美術論考－現代美術を中心に』マクミラン 1867刊 初版

**Rossetti, William Michael**

**Fine art, chiefly contemporary: notices re-printed, with revisions/by William Michael Rossetti.**

**London; Macmillan, 1867. xx, 392p.; 20cm**

1850年から66年の間に『フレイザーズ・マガジン』、『エジンバラ週刊評論』などに発表されたウィリアム・マイケル・ロセッティの美術評論を再録する。ハント、ミレー、レイトン、フリス、ブラウンなど画家論のほか作品論・展覧会評を多数所収。「日本の木版画」と題する論考では「さまざまな点から世界各国の現代美術の中で最高位に属すること間違いなし」と断じている。

48 W.M. ロセッティ『ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ、装飾家・著述家として』カッセル 1889刊 初版

**Rossetti, William Michael**

**Dante Gabriel Rossetti as designer and writer/notes by William Michael Rossetti, including a prose paraphrase of The house of life. London; Cassell, 1889. xv, 302p.: port.; 19cm**

画家・装飾家としての兄を15歳の1843年から死の82年までを各年毎に伝記的事実を加味しながら、作品を解題、記述した書。また友人などの依頼を受け、難解といわれた兄のソネット連作『生命の家』(展示 No. 6)を散文化した貴重な資料も併せて所収。 (F.32.6)

49 W.E. フリードマン編『P.R.B. 日誌－ウィリアム・マイケル・ロセッティによるラファエル前派兄弟団日記、1849～1853』オックスフォード・クラレンドン・プレス 1975刊 初版

**Rossetti, William Michael**

**The P.R.B. Journal: William Michael Rossetti's diary of the Pre-Raphaelite Brotherhood, 1849-1853, together with other Pre-Raphaelite documents/edited from the original manuscript with an introd. and notes by William E. Fredeman. Oxford, Eng.; Clarendon Press, 1975. xxvii, 282p., 6 leaves of plates: ill., facsms., ports.; 22cm**

フリードマンは『ラファエル前派主義－批評的書誌研究』(1965)(展示 No. 115)で知られるが、この碩学が、同派の年代記録者といってよい W.M. ロセッティの手記(1849年5月15日から53年1月29日)にもとづいて、いわゆる前期ラファエル前派の再構築を試みた書。巻末に精細な各種参考資料を付す。

50 オデット・ボーナンド編『W.M. ロセッティ日記、1870～1873』オックスフォード・クラレンドン・プレス 1977刊 初版

**Rossetti, William Michael**

**The Diary of W.M. Rossetti 1870-1873/edited with an introduction and notes by Odette Bornand. Oxford, Eng.; Clarendon Press, 1977. xxiii, 302p., 1 leaf of plates: port.; 22cm**

ラファエル前派同盟結成メンバーのひとり、W.M. ロセッティによる1870年4月25日から73年8月6日までの日記。W.M. ロセッティは同派の機関誌『ジャーム』(1850)(展示 No. 102)の編集を手掛けるだけでなく、その日記、書簡類によって同派の年代記録者として、彼が果たした役割は大きかった。詳細な注記あり。

51 W.M. ロセッティ『ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ著作書誌』エリス 1905刊 初版

**Rossetti, William Michael**

**Bibliography of the works of Dante Gabriel Rossetti/by William Michael Rossetti. London ; Ellis, 1905. 53p. ; 21cm. 250 copies printed**

『ビブリオグラファー』誌1902年12月および1903年1月に発表された2つの書誌を増補して一書にまとめたもの。記載された点数は全54点、他にロセッティによる挿絵本への言及と索引をふくむ。最初の作品は1843年15歳のときの物語であることが判る。それにはゲイブリエル・ロセッティ(子)と作者名が記されている。250部限定版 (F.22.1)

52 トマス・ウールナー『わが美<sup>ひと</sup>しの女』マクミラン 1864刊

**Woolner, Thomas**

**My beautiful lady/by Thomas Woolner. 2nd ed. London ; Macmillan, 1864. vi, 176p. ; 18cm**

彫刻家であり、ラファエル前派結成時のメンバーのひとりであったウールナーの長編物語詩。 (F.40.1)

53 エイミ・ウールナー『トマス・ウールナー、ロイヤル・アカデミ正会員、彫刻家・詩人 - 書簡に見るその生涯』E.P. ダットン 1917刊 初版

**Woolner, Amy**

**Thomas Woolner, R.A., sculptor and poet : his life in letters/written by Amy Woolner. New York ; Dutton, 1917. xviii, 352p., 48 leaves of plates : ill., ports. ; 23cm**

詩人・彫刻家のエイミ・ウールナーが父の遺された書簡から構成した伝記。ブラウニング、テニソン夫妻をはじめ当時の詩人との交友を生き生きと映す書簡が多い。 (F.40.14)

54 F.G. スティーヴンズ『F.G. スティーヴンズとラファエル前派の同志たち』ドナルド・マクベス 1920年頃刊 限定250部の私家版

**Stephens, Frederic George**

**Frederick George Stephens and the Pre-Raphaelite Brothers : with reproductions of twenty-four pictures from his collection/notes by J.B. Manson. London ; Privately published by Donald Macbeth at the Historic House, 1920. 14p., 24 leaves of plates : ill. ; 32cm. "Of this monograph and portfolio of 24 plates 250 copies only have been issued"**

スティーヴンズ所蔵の24点の絵画を所収。スティーヴンズの筆による4点、ミレー、ハント、ブラウンらによる5点のスティーヴンズの肖像、他にロセッティ、バーン＝ジョーンズ、フレデリック・サンズ、ジェイムズ・コリンソンらの作品をふくむ。 (F.39.2)

## セクション2

### ラファエル前派をとりまく女性たち

ラファエル前派の画家をめぐる女性たちは、しばしば「スタナーズ」(Stunners)つまり「絶世の美女たち」とよばれた。彼女たちの存在は、画家のモデルとして、妻として、愛人として、ラファエル前派芸術の成立にとって基本条件であった。若い画家たちの時代に対峙する姿勢は、作品から明らかなように、それぞれに個別的でありながら、彼らが選り好みをもった女性たちは驚くほど共通するイメージに貫かれていた。

「大きな輝いた目とゆったり大きく広がる髪の毛、情感あふれる視線を画面から投げかける女性の面立ち……悲嘆でも陽気でもないが、なにかしら裡に激しい情熱を秘めたこの面立ちは、人の注意を惹きつけながら遠く離れた非現実の存在として人の心に取り憑いてやまない物憂い独特の表情をしている」とJ. マーシュは「ラファエル前派風美女」の特異な官能美を指摘した。

「美女たち」— エリザベス・シダル、ジェイン・モリス、ファニー・コーンフォース、マリア・ザンバコ、マリー・スティルマン、アレクサ・ワイルディング、アニー・ミラー、ジョージアナ・バーン＝ジョーンズ、エマ・ヒル— の蠱惑的な姿形は同派の数多くの作品によってわれわれによく知られている。しかし、それは男によって捉えられ描かれた女としてであり、彼女たちの生の声はほとんど聞こえてこない。(多少とも例外であったと考えられるのはシダルであったろう)。ひたすら寡黙で謎めいた受け身的な女性、画家と絵を見る者からみつめられる存在である。ときには伝説的ヴェールにつつまれ、不当に歪められてさえている。悲劇のヒロインとか「宿命の美女」という座にまつりあげられ、それと引き替えに、じつは男性と同じくらいに、いや時代の因襲性にもろに身をさらさざるをえなかったが故に、男性以上に苛酷で複雑で矛盾の人生を生きたはずの女性を平坦な風景のなかに埋没・矮小化してしまった。これは一言でいえば、階級と性差が社会的仕組みとして極めて有効に機能したヴィクトリア朝の際立って時代的な風景であった。

セクション2で展示すべき「美女たち」の著書・作品が極端に少ないという事実は、「声なき美女たち」が生きた現実と無関係ではないだろう。

55 メイ・モリス編『ウィリアム・モリス著作集』全24巻 ロングマンズ、グリーン 1910-1915刊 初版  
Morris, William

**The Collected works of William Morris / with introductions by his daughter May Morris. London ; Longmans, Green, 1910-1915. 24v. ; 24cm. "This edition is in twenty-four volumes and is limited to one thousand and fifty copies, of which one thousand only are for sale." No. 992**

モリス夫妻の次女メイ・モリス(1862-1938)が父親の死後、その膨大な著作を24巻にまとめたもの。主要作品には編者による「序」が付けられている。1050部の限定出版のうち展示本は第992番。

56 C.G. ロセッティ『王子一代記ほか』マクミラン 1866刊 初版

Rossetti, Christina Georgina

**The Prince's progress and other poems / by Christina Rossetti ; with two designs by D.G. Rossetti. London ; Macmillan, 1866. viii, 216p. : ill. ; 18cm**

クリスティーナ・ロセッティの代表詩集の一つ。タイトル・ページを兄ダンテ・ゲイブリエルによる表題詩に寄せた木版画が飾る。(F.44.4)

57 C.G. ロセッティ『詩集、ペイジェントほか』マクミラン 1881刊 初版

Rossetti, Christina Georgina

**A Pageant and other poems / by Christina G. Rossetti. London ; Macmillan, 1881. ix, 198p. ; 18cm**

表題詩「ペイジェント」は12か月の名をもった12人の登場人物と駒鳥や仔羊や夜啼鶯が登場する野外劇の形式をもつ詩。総計60篇ほどの詩を所収する。(F.44.9)

58 C.G. ロセッティ『悪鬼市場ほか』マクミラン 1862刊 初版

Rossetti, Christina Georgina

**Goblin market and other poems / by Christina Rossetti ; with two designs by D.G. Rossetti. London ; Cambridge : Macmillan, 1862. vii, 192p. : ill. ; 18cm**

表題詩はクリスティーナ・ロセッティの詩業中もっともよく知られた、奇抜な空想と軽快な筆致の代表作。「朝な夕な／娘たちの耳には悪鬼の声が響いてくる／さあ、おいでよ、わたたちの果樹園でとれた果物を買いに／さあ、おいで、さあ、おいで／リンゴにマルメロ・レモンにオレンジ／……」悪鬼の誘いに屈した姉ローラを妹リジーが救う。タイトル・ページの木版画は兄ダンテ・ゲイブリエル。(F.44.3)

59 C.G. ロセッティ『もの言う肖像画』マクミラン 1874刊 初版

Rossetti, Christina Georgina

**Speaking likenesses / by Christina Rossetti ; with pictures thereof by Arthur Hughes. London ; Macmillan, 1874. viii, 96p. : ill. ; 19cm**

著者は「クリスマス向けの童話にでもと考えた短かいお話です」、「1つの枠組の中で3話構成になっています」と出版社に伝えた。クリスティーナの作品としてはあまり好意的に受け入れられなかった。3少女フローラ、マギー、エディスには作者自身の投影があると考えられている。(F.44.7)

60 C.G. ロセッティ『光陰矢のごとし - 読書のための暦』キリスト教知識普及協会 1897刊

Rossetti, Christina Georgina

**Time flies : a reading diary / by Christina G. Rossetti. London ; Society for Promoting Christian Knowledge, 1897. 280p. ; 20cm. Published under the direction of the Tract Committee.**

元旦から大晦日まで、日記形式でキリスト教における諸行事と諸聖人の祝日をたどりながら綴られた断想と思案の書。

61 J.C. トロクセル編『ロセッティ作 修道女ヘレン』イエール・ユニヴァーシティ・プレス 1939刊  
**Rossetti, Dante Gabriel**

**Rossetti's Sister Helen / edited by Janet Camp Troxell. New Haven ; Yale University Press, 1939. viii, 95p., 10 leaves of plates (1 folded) : ill. ; 26cm. "The text of 'Sister Helen' is traced here through the author's changes from its first appearance in the 'Dusseldorf artists' album' in 1854 to the 'Poems', 1881."**

1858年『ジュセルドフル芸術家アルバム』に掲載されてはじめて公にされた本詩は、不実な恋人の蠟人形が溶けていくというおどろおどろしいバラッド風的一篇だが、1881年『詩集』に収められたとき、テキストに幾多の変更・追加が行われていた。現存するタフニッツ版、フィッツウィリアム・ミュージアム所蔵原稿その他を手掛りにテキストの変更・追加の過程を精密に探査する、編者の署名入り贈呈本。(F.23.33)

62 フレドゴンド・ショーフ『クリスティーナ・ロセッティ研究』ケンブリッジ・ユニヴァーシティ・プレス 1931刊 初版

**Shove, Fredegond**

**Christina Rossetti : a study / by Fredegond Shove. Cambridge ; Cambridge University Press, 1931. xvi, 120p. ; 21cm**

「生涯」、「詩」、「散文」、「時代のなかのC.ロセッティ」の4部からなる、この女流詩人をめぐる試論。

(F.44.63)

63 マッケンジー・ベル『クリスティーナ・ロセッティ - 評伝と作品研究』ハースト・アンド・ブラケット 1898刊 初版

**Bell, Mackenzie**

**Christina Rossetti : a biographical and critical study / by Mackenzie Bell. London ; Hurst and Blackett, 1898. xvi, 364p., 4 leaves of plates : ill., facsim., ports. ; 23cm**

ウィリアム・マイケル・ロセッティの友人ベルによる女流詩人クリスティーナ・ロセッティの生涯と作品についての数少ない基本文献。巻末に詳細な書誌と肖像画および写真、ロセッティのチョークの素描をはじめ5点の図版を所収。(F.44.36)

64 F.M. ヘファー「クリスティーナ・ロセッティ」『隔週評論 新シリーズ』第531号(チャップマン・アンド・ホール 1911年3月)、422-429ページ所載

**Hueffer, Ford Madox**

**Christina Rossetti / by Ford Madox Hueffer. London ; Chapman and Hall, 1911. p. 422-429 ; 26cm. (An article published in "The Fortnightly review. New series" No. 531 March, 1911)**

著者ヘファー(1837-1939)はブラウン夫妻の長女キャサリンの息子で、小説家・批評家・編集者。『隔週評論』は1865年G.H. ルーイス(1817-78)を主筆として創刊された自由主義を立場とする評論誌。隔週発行はまもな



く月刊になり、1955年『現代評論』（創刊1866年）と合併した。なおルースは女流作家ジョージ・エリオット（1819-80）と非合法の同棲を死ぬまで続けた間柄であったが、彼女の創作上のよき助言者でもあった。なお F. M. ヘファーは1919年以降フォード・マドックス・フォードに改姓した。（F.44.46）

- 65 F.M. ヘファー「クリスティーナ・ロセッティ詩選集」『隔週評論 新シリーズ』第447号（チャップマン・アンド・ホール 1904年3月）、393-405ページ所載

**Hueffer, Ford Madox**

**The Collected poems of Christina Rossetti/by Ford Madox Hueffer. London ; Chapman and Hall, 1904. p.393-405 ; 26cm. (An article published in "The Fortnightly review. New series" No.447 March, 1904)**

No. 64と同じ解説

- 66 ジョージアーナ・バーン＝ジョーンズ『エドワード・バーン＝ジョーンズの回想の記』全2巻 マクミラン 1909刊

**Burne-Jones, Georgiana, Lady**

**Memorials of Edward Burne-Jones/by G B-J. 2nd ed. London ; Macmillan, 1909. 2v. : ill. ; 23cm.**

画家の妻によるバーン＝ジョーンズの回想記。詳細な生涯と交友を情愛をこめて描出した第一次資料。初版は1904年。全2巻28章より成る。

- 67 ヴァイオレット・ハント『ロセッティの妻－その生と死』E.P. ダットン 1932刊 初版

**Hunt, Violet**

**The Wife of Rossetti: her life and death/by Violet Hunt. New York ; Dutton, c1932. xxx, 338p., 30 leaves of plates : ill., ports. ; 23cm**

ラファエル前派に深くかかわった。いわゆる「絶世の美女」（スタナー）の容姿は多くの絵画で知られているが、彼女たちの生の声はほとんど伝えられていない。「スタナー」の中心的存在であったリジーことエリザベス・シダルに関する数少ない伝記のひとつ。ただしダブル・スタンダードの厳存したヴィクトリア朝の社会構造のなかで生きた一女性として、保守的な目で捉えられた同性による伝記である。（F.59.7）

- 68 M.F. ロセッティ『ダンテの影』リヴィングトンズ 1871刊 初版

**Rossetti, Maria Francesca**

**A Shadow of Dante: being an essay towards studying himself, his world and his pilgrimage/by Maria Francesca Rossetti. London ; Rivingtons, 1871. 296p., 5 leaves of plates : ill ; 20cm**

著者マライア・フランチェスカはロセッティ家の長女（1827-?）で、ダンテ・ゲイブリエルの姉。本書はダンテの世界と彼の遍歴の道程を考察するダンテ論。なお装丁はダンテ・ゲイブリエル・ロセッティによるが、ラファエル前派関係の書誌研究の第一人者フリードマンはロセッティの手による「もっとも複雑な表紙装飾」と評した。

## セクション3

### ラファエル前派周辺の画家・詩人たち

ラファエル前派主義に共鳴を示した画家、詩人はけっして少なくない。そうした同派の仲間たちを周辺に位置づけて、いわば広義のラファエル前派とすることが一般ではあるが、そのことの格別の定義はない。逆に誰をもって狭義のラファエル前派とするかについても同様に特定しがたい。結成時のメンバー7人にバーン＝ジョーンズとモリスを加えて、狭義のラファエル前派とするのが普通である。

しかし、結成時に名を連ねていたとはいえ、J. コリンソンは宗教上の理由もあって、ラファエル前派との結び付きは希薄で、同派の「正式メンバー」とするには違和感がある。それに反して、終始ラファエル前派とは一定の距離を置いていたにもかかわらず、また年齢的にもひとつ上の世代に属するとはいえ、フォード・マドックス・ブラウンは、ラファエル前派の仲間たちと長い交友関係を保っていたことを考えるとき、「正式メンバー」の資格十分といえることができる。画家だけではない、例えば、詩人 A.C. スウィンバーンは、ラファエル前派の画家たちと、なかんずくロセッティと芸術家として中世世界への情熱を共有したこと、シグルにたいする並々ならぬ傾注ぶりなどは、詩人を「正式メンバー」に加えてもいいと思われる。詩人ウィリアム・アリングガムもモリス夫妻、バーン＝ジョーンズ夫妻との交際を考えれば同じ思いに誘われる。

セクション3ではごく常識的にまた便宜上セクション1で扱った人々以外で同派にかかわった画家、詩人などを周辺の仲間とした。また、ラファエル前派全般について書かれた研究書・エッセーなどもこのセクションにふくめた。

69 F.M. ヘファー 『フォード・マドックス・ブラウン — 生涯と作品』 ロングマンズ、グリーン 1896  
刊 初版

**Hueffer, Ford Madox**

**Ford Madox Brown: a record of his life and work/by Ford M. Hueffer. London; Longmans, Green, 1896. xx, 459p., 46 leaves of plates: ill.; 24cm**

画家の孫が著わした祖父の詳細な伝記。著者ヘファーは画家の二人目の妻エマとの間に生まれたキャサリンの子である。フォード・マドックス・ブラウンは小さなアトリエの戸外にこの母子を立たせてモデルとし「メーメー鳴く可愛い子羊たち」を描いた。(F.41.18)

70 H.R. アンジェリ 『フォード・マドックス・ブラウン』 ド・ラ・モア・プレス 1901刊 初版

**Angeli, Helen Rossetti**

**Ford Madox Brown/by Helen M. Madox Rossetti. London; Published for the Committee of the Whitechapel Art Gallery by the De La More Press, 1902. 15p., 2 leaves of plates: ill., ports.; 18cm**

ヘレン・アンジェリはフォード・マドックス・ブラウンの孫娘であり、ウィリアム・マイケル・ロセッティの娘でもある。この15ページあまりの小冊子で祖父を「偉大な知性と芸術的才能をともに具えた稀有な人物」と記した。彼女にはほかに伯父ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティについての著作もある。(F.41.24)

71 ヴァージニア・サーティーズ編 『フォード・マドックス・ブラウンの日記』 イエール・ユニヴァーシティー・プレス 1981刊 初版

**Brown, Ford Madox**

**The Diary of Ford Madox Brown/edited by Virginia Surtees. New Haven; Published for the Paul Mellon Centre for Studies in British Art by Yale University Press, 1981. xv, 237p.: ill.; 24cm (Studies in British art)**

編者のV.サーティーズ女史はロセッティの全作品解題目録(全2巻)(展示No.18)の仕事によって知られる。本書はブラウンの日記からラファエル前派の画家たちとの交友関係を身辺雑記とあわせて精彩に再構築する。本書にはウィットィック・マナーのレディ・マーンダーのタイプによるメモが一葉付さされていて、本書の書評の依頼を受けながら、「ラファエル前派の方々にはあまりにも身近な存在であるため」として辞退している。詳細な注解付き。

72 O.M. ブラウン 『スティルマン夫人の絵に寄せて13歳のときに作ったソネットなど』 エリック・ア  
ンド・ジョーン・スティーヴンズ 1981刊 初版 100部限定のうち第40番

**Brown, Oliver Madox**

**Sonnet written at the age of thirteen for a picture by Mrs. Stillman, and other poems/by Oliver Madox Brown. London; Eric & Joan Stevens, 1981. 6p.; 26cm. "This edition, set and printed by hand, is limited to 100 numbered copies." No. 40**

オリヴァー(通称“ノリー”)はフォード・マドックス・ブラウンの長男だが、わずか19歳で敗血症のため夭折。ブラウン夫妻は「神童」とも思われた息子の死に大きな衝撃をうけた。一方、スティルマン夫人は旧姓をマリー・スバルタリといい、19世紀末のロンドンにおけるギリシャ人社交界の華だった麗人で、ラファエル前派の画家のモデルとなったこともしばしばだった。

73 ウィリアム・アリンガム 『英国バラッド選集』 マクミラン 1887刊

**Allingham, William**

**The Ballad book : a selection of the choicest British ballads / edited by William Allingham. London ; Macmillan, 1887. xlvii, 393p. : ill. ; 17cm (Golden treasury series)**

バラッドとは民間伝説・民話などの物語詩、またはそれに節をつけた歌謡で、起源は15世紀までさかのぼる。本書は詩人アリンガムによる英国バラッド精選集で、当初タイトル・ページはロセッティによるビネットで飾られるようになっていたが、これは実現せず、N.ペイトンの作品がこれにかわった。初版は1864年。

74 ヘレン・アリンガム編『折ふしの詩』ロングマンズ、グリーン 1912刊 初版

**Allingham, William**

**By the Way : verses, fragments, and notes / by William Allingham ; arranged by Helen Allingham. London ; Longmans, Green, 1912. v, 167p. ; 20cm**

編者は詩人アリンガムの妻。夫の遺稿のなかにみつけた詩、断想、文芸短評などを一書にまとめたもの。

75 ヘレン・アリンガム他編『ウィリアム・アリンガムの日記』マクミラン 1908刊

**Allingham, William**

**William Allingham : a diary / edited by H. Allingham and D. Radford. London ; Macmillan, 1908. viii, 404p., 2 leaves of plates : facsim. ; 23cm. "First edition 1907. Reprinted 1908." Lacks frontis and other ill.**

本日記には、同時代の文学者たちについて生気ある描出のほか、ラファエル前派、ことにロセッティについて多数の詳細な言及がある。生まれ故郷アイルランド北部ドネゴール州の町バリシャノンを日記の冒頭で「私の生まれた小さな古い町には、その町ならではの“声”がするー低い荘厳な途切れることない“声”が朝な夕な、夏・冬を問わず響いている。故郷を思うとき、私はいつもその“声”をきくような気がする」と叙した。初版は1907年。(F.46.22)

76 R.W. ブキャナン『詩歌の肉感派』A. ストローン 1872刊 初版

**Buchanan, Robert Williams**

**The Fleshly school of poetry, and other phenomena of the day / by Robert Buchanan. London ; Strahan, 1872. ix, 97p. ; 19cm**

ブキャナンはスコットランド生まれの詩人・小説家。ラファエル前派、とくにロセッティ、モリス、スウィンバーンの感覚的表現を「肉感派」と評して痛烈に攻撃し、長期にわたる論争の因をなした。筆名トマス・メイトランド。1870年に上梓されたD.G. ロセッティの『詩集』について『現代批評』（1871年10月号）で、詩そのものばかりか、詩人の倫理性にまで言及した酷評をのせた。なかでもソネット連作『生命の家』（展示No.6）は淫売宿にたとえられ、「いぎたない言辞の温床」と決めつけた。ロセッティは弟の助言も無視して、12月に作品を弁護する反論を出した。するとブキャナンは翌年の5月に100ページの冊子によってこれに応じた。このことでロセッティは甚大な衝撃をうけ、のちの精神障害の引き金となった。(F.82.6)

77 R.W. ブキャナン『ロバート・ブキャナン全詩集』全2巻 チャトー・アンド・ウィングス 1901刊 初版

**Buchanan, Robert Williams**

**The Complete poetical works of Robert Buchanan / by Robert Buchanan. London ; Chatto & Windus, 1901. 2v. : ports ; 20cm**

詩人ブキャナンはロセッティ、スウィンバーンの詩にみられる感覚的官能的表現を「肉感派」の表現と攻撃して、長期にわたる論争をひきおこした。

78 エドモンド・ゴス『コヴェントリー・パットモア』ホダー・アンド・スタウトン 1905刊 初版  
**Gosse, Edmund**

**Coventry Patmore/by Edmund Gosse. London; Hodder and Stoughton, 1905. viii, 252 p., 8 leaves of plates: ill., ports.; 20cm (Literary lives)**

著者ゴス(1849-1928)は批評家・エッセイスト。自伝的な小説『父と息子』も著わした。R.L. スティーヴンソン、スウィンバーンらの親友であった。詩人パットモアはテニス、ラスキンとの親交を通じてラファエル前派と知り合った。結婚後の神聖化を標榜した連作長詩、『家庭の天使』はヴィクトリア朝における女性像の理想を提示したが、それは当時の抑圧された性道徳と表裏一体をなすものであった。(F.52.5)

79 デレック・パットモア『コヴェントリー・パットモアの生涯と時代』コンスタブル 1949刊  
**Patmore, Derek**

**The Life and times of Coventry Patmore/by Derek Patmore. London; Constable, 1949. xii, 249p., 9 leaves of plates: ill.; 23cm. First published 1935 under title: Portrait of my family**

本書ははじめ1935年に『わが家の肖像』として公刊されたものの改題・改訂版。(F.52.11)

80 トマス・ヘイク他編著『アルジャーノン・チャールズ・スウィンバーン書簡集』ジョン・マレー 1918刊 初版

**Swinburne, Algernon Charles**

**The Letters of Algernon Charles Swinburne: with some personal recollections/by Thomas Hake and Arthur Compton-Rickett. London; John Murray, 1918. xxii, 208p., 5 leaves of plates: ill., facsim., ports.; 23cm**

1869年11月から詩人の死に至るおよそ10年間の書簡を中心に、世紀末耽美派の代表的詩人の特異な関心と趣向を明らかにしつつ、詩人とロセッティおよびワッツ＝ダントンの親交を辿ろうとするもの。ほかに編者による詩人の「幼少時代」と「スウィンバーンとロセッティ」などの論考を所収。(F.62.9)

81 フィリップ・ヘンダーソン『スウィンバーン - 詩人の肖像』ラトリッジ・アンド・キーガン・ポール 1974刊 初版

**Henderson, Philip**

**Swinburne: the portrait of a poet/by Philip Henderson. London; Routledge & K. Paul, 1974. ix, 305p., 12p. of plates: ports; 24cm**

モリスの浩瀚な伝記を著したヘンダーソンによる世紀末耽美派を代表する詩人の伝記。詩および作品はいうまでもなく、膨大な書簡、私記、同時代人による回想記から詩人の特異で複雑な人間像と流麗な詩才を活写した。

82 A.C. スウィンバーン『カリドンのアタランタ』メジチ・ソサイアティ 1923刊 限定販売1000部のうち720番

**Swinburne, Algernon Charles**

**Atalanta in Calydon: a tragedy** / by Algernon Charles Swinburne. London ; Medici Society, 1923. xix, 79p. ; 24cm. "Of this edition of ATALANTA IN CALYDON in the Eleven Point Riccardi Fount have been printed on hand-made Riccardi Paper 1025 copies, of which 1000 only are for sale, and on vellum 12 copies, of which 10 are for sale." No. 720 (The Riccardi Press booklets)

ギリシャ古典劇に倣った詩悲劇。詩人の流麗な詩才をよく示す佳作。初版(1865)はハントが「出版業者のなかの詩人、詩人のなかの出版業者」と称したエドワード・モクソンによるモクソン版。本書は手漉き紙にリカルド・プレス活字によって印刷された1923年版。ラスキンはこの作品を「青年の仕事としてはこれまでになく壮大、もっともこの若者は悪魔的だが」と評した。

83 A.C. スウィンバーン『レズビア・ブランドン』ファルコン・プレス 1952刊 初版

Swinburne, Algernon Charles

**Lesbia Brandon** / by Algernon Charles Swinburne ; an historical and critical commentary being largely a study (and elevation) of Swinburne as a novelist by Randolph Hughes. London ; Falcon Press, 1952. xxxv, 583p. ; 21cm

世紀末耽美派詩人の未完の自伝的小説。生前日の目をみることなく、死後40年以上もたった1952年に出版された。本書は小説本体に、ランドルフ・ヒューズによるこの小説の評価と従来知られることが少ない小説家スウィンバーンについての作家論が付されている。(F.62.7)

84 ウィリアム・ミント編『W.B. スコットの生涯についての自伝的手記』全2巻 ハーパー・アンド・ブラザーズ 1892刊 初版

Scott, William Bell

**Autobiographical notes of the life of William Bell Scott : and notices of his artistic and poetic circle of friends, 1830 to 1882** / edited by W. Minto ; illustrated by etchings by himself and reproductions of sketches by himself and friends. New York ; Harper & Brothers, 1892. 2v. : ill., ports. ; 23cm

手記にあわせて W.B. スコット自身のエッチング6点を所収。また興味深いのは1830年から82年までの詩人や画家との交友に関する記述とロセッティの書簡9通(1847-65)からの抜粋およびケルムスコットから発信したロセッティの10通(1通を除いて1871年)の全文であろう。ほかにウォルター・デヴァレルとチャールズ・コリンズなどについての記述あり。(F.56.10)

85 S.C. ホール編『英国バラッド集』ジェレマイア・ハウ 1842刊 初版

Hall, Samuel Carter (ed.)

**The Book of British ballads** / edited by S.C. Hall. London ; Jeremiah How, 1842. iii, 440p. : ill. ; 26cm. Designs by W.B. Scott ... [et al.]

バラッドの名品選集。全篇に解題・挿絵付。W.B. スコットによる挿絵を所載。

86 H.R. アンジェリ『ラファエル前派の黄昏 - チャールズ・オーガスタス・ハウエルの実像と虚像』リチャーズ 1954刊 初版

Angeli, Helen Rossetti

**Pre-Raphaelite twilight : the story of Charles Augustus Howell** / by Helen Rossetti Angeli. London ; Richards, 1954. xiii, 256p. ; 22cm

C.A. ハウエルはラファエル前派をめぐる人物のなかで、ある意味でもっとも興味深いかつ謎の多い人物。画商であり、ロセッティの一時秘書的役割を果たしたこともある。また、ロセッティによるシダルの墓の発掘に協力した。ロセッティ兄弟やブラウンへの書簡を所収するほか、ラスキン、スウィンバーン、ホイッスラーらとの友情と不和などハウエルをめぐる事実と虚構をめぐる考察。(F.77.66)

87 メアリー・サンズ編『F. サンズの木版画、1860～1866(複製)』カール・ヘンツェル 1910年頃刊  
Sandys, Frederick

**Reproductions of woodcuts by F. Sandys, 1860-1866 / edited by Mary Sandys. London ; Published for Mrs. Sandys by Carl Hentschel, [19--]. 7p., 25 leaves of plates : chiefly ill. ; 26cm. The folio list of the woodcuts (12p. ; 32cm) and a copy of "Proud Maisie" (1leaf of plates : ill. ; 32cm)**

フレデリック・サンズの60年代の木版画を画集編 (B. ジョンソンの解説) と解題編の2部構成でまとめたものの。(F.55.8)

88 ウィリアム・デイヴィス他編『ジェイムズ・スメザム書簡集、付回想の記』マクミラン 1902刊  
Smetham, James

**Letters of James Smetham, with an introductory memoir / edited by Sarah Smetham and William Davies. 2nd ed. London ; Macmillan, 1902. 404p. ; 19cm**

1821年ヨークシャー州生まれで、ラスキンやロセッティの友人であったジェイムズ・スメザムの1853年8月28日付の手紙から77年7月30日付の手紙によって、ロイヤル・アカデミーに出展を続けた画家の活動期を辿ろうとするもの。あわせてW. デイヴィスによる回想記と6篇の詩を所収。(F.60.1)

89 T.B. モシャー編『愛書家のための詩と散文選集』第15巻 W.H. ワイズ 1909刊  
Mosher, Thomas Bird (ed.)

**The Bibelot : a reprint of poetry and prose for book lovers, chosen in part from scarce editions and sources not generally known. Testimonial ed. New York ; W.H. Wise, 1909. 448p. ; 16cm. A vision of love revealed in sleep / by Simeon Solomon (p. 3-55). Review : A vision of love revealed in sleep by Simeon Solomon, F.S. Ellis, 1871 / by J.A. Symonds (p. 57-64). Notes on poems and reviews / by Algernon Charles Swinburne (p. 219-253). "Edited and originally published by Thomas B. Mosher, Portland, Maine, 1909."**

画家シメオン・ソロモンの唯一の物語「夢に現れた愛の幻影」(1871)、スウィンバーン、ジェイムズ・スメザムの所説、C. ボードレールの散文詩の英訳(アーサー・シモンズ訳)など10篇を所収。(F.61.2)

90 バーナード・フォーク『死んで5年』ブック・クラブ 1938刊  
Falk, Bernard

**Five years dead : a postscript to "He laughed in Fleet Street" / by Bernard Falk. Special ed. For The Book Club. London ; The Book Club, 1938. 377p., 33 leaves of plates : ill. ; 22cm**

B. フォークはジャーナリスト。現在では完全に忘れられてしまっているといっているといい、当時の文士、画家などの記事26篇をまとめた一書。中に「シメオン・ソロモンの悲劇、栄光からの転落」と「ホイッスラー主義」の2文をふくむ。前者は断片的ながらソロモンの生涯に関する貴重な記録。(F.64.15)

91 S.M. エリス 『ウィルキー・コリンズ、レ・ファニユほか』 コンスタブル 1931刊 初版

Ellis, Stewart Marsh

Wilkie Collins, Le Fanu, and others/by S.M. Ellis. London; Constable, 1931. 343p.: ill., port.; 23cm

ウィルキー・コリンズは小説家で、ハントの旧友であった。本論文集にはコリンズの弟で、作家・画家のチャールズ・オールストン・コリンズをはじめ、ラファエル前派関係ではハントのほか、ミレー、ロセッティ兄弟、ラスキン、スウィンバーンらへの多数の言及がある。(F.87.13)

92 T.R. ウェイ 『ジェイムズ・マクニール・ホイッスラー回想の記』 ジェイン・レイン 1912刊 初版

Way, Thomas Robert

Memories of James McNeil Whistler, the artist/by T.R. Way. London; J. Lane, 1912. xi, 150p., 36 leaves of plates: ill. (some col.); 24cm

ホイッスラー(1834-1903)はアメリカ生まれ、パリで学んだ画家。本回想記は長年の友人だったウェイによる、多数のファクシミリ版スケッチ、石版画を所載した、国際的画家の思い出の記。

93 ミセス・ラッセル・バリントン 『フレデリック・レイトン評伝、その生涯・書簡・作品』 全2巻  
ジョージ・アレン 1906刊 初版

Barrington, Russell, Mrs.

The Life, letters and work of Frederic Leighton/by Mrs. Russell Barrington. London; G. Allen, 1906. 2v.: ill., ports.; 25cm

レイトン卿の死後10年あまりしか経過しない時点で上梓された本書は、レイトンに関するもっとも早い伝記。141点のページ大の図版を所収。(F.86.5)

94 アーネスト・ライズ 『準男爵、ロイヤル・アカデミー会長、サー・フレデリック・レイトン、作品にみるその生涯』 ジョージ・ベル 1895刊 初版

Rhys, Ernest

Sir Frederic Leighton, bart., P.R.A./an illustrated chronicle by Ernest Rhys; with prefatory essay by F.G. Stephens. London; G. Bell, 1895. xxxi, 74p., 110 leaves of plates; 36cm

序文(31ページ)はラファエル前派結成メンバーのひとり、画家・美術批評家でもあったF.G. スティーヴンズによる。全ページ大図版115点を所収。

95 ミセス・アンドルー・ラング 『レイトン卿 ロイヤル・アカデミー会長 - 生涯と作品』 アート・  
ジャーナル・オフィス 1895年頃刊 初版

Lang, Andrew, Mrs.

Lord Leighton: his life and work/by Mrs. A. Lang. London; Art Journal Office, [18--]. 32p., 4 leaves of plates: ill., ports.; 34cm (The Art annual)

修行時代 - 作品 - 装飾芸術 - 彫刻 - 境遇の5部から成る。18年間にわたってロイヤル・アカデミーの会長を務め、比類ない業績を挙げた、このヴィクトリア朝を代表する古典派芸術家の足跡を記す。(F.37.26)



96 M.S. ワッツ編著『ジョージ・フレデリック・ワッツ』全3巻 マクミラン 1912刊 初版

Watts, Mary S. (ed.)

**Georg Frederic Watts/M.S. Watts. London ; Macmillan, 1912. 3v. : ill., ports ; 23cm. V. 1-2 : The annals of an artists life/by M.S. Watts. V. 3 : His writings**

編著者メアリー・セットン・ワッツはワッツの二番目の妻。第1、2巻が画家の伝記、第3巻が画家の美術論を中心にしたエッセー集。ラスキン、ロセッティなど書簡をふくめてラファエル前派への言及を多くふくむ。

(F.63.8)

97 ロナルド・チャップマン『月桂樹とサンザシ - G.F. ワッツ研究』フェイバー・アンド・フェイバー 1945刊 初版

Chapman, Ronald

**The Laurel and the thorn : a study of G.F. Watts/by Ronald Chapman. London ; Faber and Faber, 1945. 184p., 32p. of plates : ill., ports. ; 24cm**

ヴィクトリア朝の古典派画家として名声をきわめたワッツの人生の光と影を綴った評伝。第6章は「友人たち、ラファエル前派の仲間」と題されている。ほかにリトル・ホランド・ハウスでの人間模様、最初の妻エレン・テリー、第二の妻 M.F. タイトラーのことなど生氣ある記述が魅力の伝記。

(F.63.13)

98 ヒュー・マクミラン『ジョージ・フレデリック・ワッツ、生涯と作品』J.M. デント 1903刊 初版

Macmillan, Hugh

**The Life-work of George Frederick Watts/by Hugh Macmillan ; with reproductions from photographs by Hollyer of six of the artist's pictures and other illustrations. London ; Dent, 1903. x, 302p., 11 leaves of plates : ill., ports. ; 20cm (The Temple biographies)**

「樞の古木、それは太古からの森にひとり屹立して、われわれに深い畏敬の念を喚びおこす。無数の樹木の唯一の生き残り、その緑濃い樹陰は生と美と神秘に溢れた世界を形成してきた。……」ヴィクトリア朝美術界の大御所を巨木にたとえたこんな書き出しで始まる評伝。

99 シオドア・ワッツ=ダントン『詩と英詩における奇跡の誕生』ハーバート・ジェンキンス 1916刊 初版

Watts-Dunton, Theodore

**Poetry and the Renascence of wonder/by Theodore Watts-Dunton. London ; Herbert Jenkins, 1916. xvii, 296p. ; 20cm**

T. ワッツ=ダントン (1832-1914) は文芸批評家として多数の雑誌に寄稿を重ねた。本書は1884年の『ブリタニカ百科事典』(第9版)の「詩」の項目のための文章をもとに分量を3倍にするなど、大幅に加補筆したもの。ほかに「英詩における奇跡の誕生」を所収。これはもとは1904年『チェインバーズ英文学事典』の「序言」だったもの。

(F.64.3)

100 シオドア・ワッツ=ダントン『小説、エイルウィン』ハースト・アンド・ブラケット 1901刊

Watts-Dunton, Theodore

**Aylwin/by Theodore Watts-Dunton. Snowdon ed. London ; Hurst and Blackett, 1901. viii, 436p. ;**

## 21cm

T. ワッツ＝ダントン (1832-1914) は事務弁護士・小説家・詩人。ロセッティが晩年もっとも頼りにしていた友人。スウィンバーンとも交友があった。この小説はロセッティがチェイニ・ウォーク16番に住んでいた頃を背景に、ロセッティと交友関係のあった仲間をモデルにしたもの。ただし、ジブシーの少女を主題にするなど、全体に強くカモフラージュが施されている。ロセッティは画家ダーシー＝ハロウン・アル・ラシッド、チャールズ・オーガスタス・ハウエルはデ・カストロとして登場する。表題のエイルウィンはフレデリック・サンズをモデルにしたボヘミアン。

### 101 『芸術雑誌』第6号 カッセル 1883刊

**Val Prinsep, A.R.A. : painter and dramatist / by Wilfrid Meynell. London ; Cassell, 1883. p. 405-409 : port. ; 32cm. (An article published in "The Magazine of art" Vol. 6 1883)**

**With : A Pre-Raphaelite collection / by Cosmo Monkhouse (p. 62-70 : ill.)**

**With : Rossetti as a painter / by Sidney Colvin (p. 177-183 : ill.)**

**With : Edward J. Poynter, R.A. / by Emilia F.S. Pattison (p. 245-251 : ill., port.)**

本誌に収められたラファエル前派関係の記事としては、W. メイネル「ヴァル・プリンセプー 画家・劇作家」(pp. 405-409)、エミリア・パティソン「エドワード・J. ポインター」(pp. 245-251)、コズモ・モンクハウス「ラファエル前派コレクション」(pp. 62-70)、シドニー・コルヴァン「画家、ロセッティ」(pp. 177-183)。巻末に1882年10月から1883年9月の1年間の美術界の動静を誌す年表を付す。(F. 87.4/6.1/30.8)

### 102 W.M. ロセッティ編『ザ・ジャームー 詩と文学と芸術に寄せる思念』エリオット・ストック 1901刊 1850年創刊の同誌のファクシミリ・リプリント版

**Rossetti, William Michael (ed.)**

**The Germ : thoughts towards nature in poetry, literature, and art : being a facsimile reprint of the literary organ of the Pre-Raphaelite Brotherhood published in 1850 : with an introduction by William Michael Rossetti. London ; Elliot Stock, 1901. 5v. (30, 192p) ; 24cm. Five parts in case. No. 1-2 The Germ : thoughts towards nature in poetry, literature, and art, Jan.-Feb., 1850. No. 3-4 Art and poetry : being thoughts towards nature, March, May, 1850. [No. 5] Preface / by W.M. Rossetti**

この「芽生え」と題されたラファエル前派の機関誌は1850年1月に創刊、5月には第4号を出して廃刊した。ラファエル前派の同志による詩文・挿絵を掲載、ロセッティの弟ウィリアム・マイケル・ロセッティが編集を担当した。寄稿者はエレン・アレン(クリスティーナ・ロセッティの匿名)、ロセッティ兄弟、トマス・ウールナー、ウィリアム・ベル・スコットら、挿絵はハント、ジェームズ・コリンソン、ブラウン、ウォルター・デヴァレルの4人。ロセッティのよく知られた詩『浄福の天女』はこの雑誌(第2号)に発表された。なお誌名は第3号から『芸術と詩』に変更された。展示のリプリント版にはウィリアム・マイケル・ロセッティによる小冊「序言」が付された。(F. 72.3)

### 103 T.E. ウェルビ『ヴィクトリア朝ロマン主義者たち、1850~70年』ジェラルド・ハウ 1929刊 初版 750部限定版

**Welby, Thomas Earle**

**The Victorian romantics, 1850-70 : the early work of Dante Gabriel Rossetti, William Morris, Burne-Jones, Swinburne, Simeon Solomon and their associates / by T. Earle Welby. London ; Gerald Howe, 1929. x, 161p., 11 leaves of plates : ill., facsim. ; 26cm. "Of this book 750 copies have**

**been printed for England and America at The Westminster Press and the type has been distributed.”**

ロセッティ、モリス、バーン＝ジョーンズ、スウィンバーン、ソロモンなどの初期作品を対象にしながら、詩と絵画のそれまでにない親密な相互関係を特長とするヴィクトリア朝ロマン主義の動向を考察した一書。

(F.66.21)

104 G.S. レアド『テニソンとラファエル前派画家の挿絵』エリオット・ストック 1894刊 初版

**Layard, George Somes**

**Tennyson and his Pre-Raphaelite illustrators: a book about a book/by George Somes Layard. London; E. Stock, 1894. viii, 68p., 7 leaves of plates: ill.; 23cm. “This edition consists of 750 copies.”**

テニソンあるいはキーツの詩にラファエル前派の画家が創作上の靈感をうけたことはよく知られている。本書はテニソンの親友で出版業者だったエドワード・モクソンがミレー、ロセッティ、ハントの協力をえて、1857年『テニソン詩集』を出版した。3人の挿絵が詩集を飾り、モクソン版として知られる美麗本が誕生した。レアドは3人の画家の制作過程と詩との相関関係を検証した。750部の限定出版。

(F.88.1)

105 ジョーゼフ・ペネル『現代の挿絵』ジョージ・ベル・アンド・サンズ 1895刊初版

**Pennell, Joseph**

**Modern illustration/by Joseph Pennell. London; George Bell and Sons, 1895. xxvi, 146p., 95 leaves of plates: ill. (some col.); 20cm (The Ex-libris series)**

ヴィクトリア朝は1860年代を頂点に挿絵文化がかつてない展開をみせた。『パンチ』、『ロンドン挿絵入りニューズ』などの創刊もそうした時代の動向に応え、貢献した。貴重な図版でこのユニークな文化の展開をあとづける書。ホイッスラー、バーン＝ジョーンズ、ウォルター・クレイン、アーサー・ヒューズ、フレデリック・サンズ、ハントなどへの言及あり。

106 F.T. パルグレイヴ『芸術論集』マクミラン 1866刊 初版

**Palgrave, Francis Turner**

**Essays on art/by Francis Turner Palgrave. London; Cambridge; Macmillan, 1866. viii, 315p.; 18cm**

オックスフォード大学エグセター・カレッジで教鞭をとったパルグレイヴによる1860年代イギリス美術界の現況を論じたもの。「ホルマン・ハント氏の近作について」「フォード・マドックス・ブラウン氏の絵画」など独立した論考のほか、レイトン、ホイッスラー、ミレーなどへの言及あり。

(F.21.5/36.14)

107 ウィリアム・ゴント『美の冒険』ジョナサン・ケーブ 1945刊 初版

**Gaunt, William**

**The Aesthetic adventure/by William Gaunt. London; Cape, 1945. 224p., 16p. of plates: ill. (chiefly col.); 21cm**

本書は1880年代から1910年までを背景に、芸術至上主義、印象主義、デカダン派の運動に焦点を絞った論考。ラファエル前派周辺画家のひとりS.ソロモンについての言及あり。同じゴントによる『ラファエル前派の悲劇』、『ヴィクトリア朝のオリンパス』と3部作をなす。

(F.61.15)

108 ウィリアム・ゴント『ヴィクトリア朝のオリンパス』ジョナサン・ケイブ 1952刊

**Gaunt, William**

**Victorian Olympus/by William Gaunt. London; Cape, 1952. 199p., 16p. of plates: ill.; 21cm**

美術史家ゴントのヴィクトリア朝イギリス美術に関する3部作の1つ。エルギン・マーブルがイギリスにもたらされた経緯から始まって、それがレイトンやワッツに与えた影響を論じて、ヴィクトリア朝における古典派の源流とその業績を辿る論考。アルマ・タデマ、エドワード・ポインター、アルバート・ムーア、ホイッスラーほか、ミレー、ハントへの言及あり。

109 ウィリアム・ゴント『ラファエル前派の夢』リプリント・ソサイアティ 1943刊

**Gaunt, William**

**The Pre-Raphaelite dream/by William Gaunt. London; The Reprint Society, 1943. 294p., 32p. of plates: ill., ports.; 20cm. "First published in 1942 under the title of "The Pre-Raphaelite tragedy"."**

『ラファエル前派の悲劇』(1942)にあらたに周到な序文を付した改題版。本書は『美の冒険』、『ヴィクトリア朝のオリンパス』とともに、ヴィクトリア朝美術に関するゴントの3部作を構成する。序文でラファエル前派を「ヴィクトリア朝という広漠たる散文的な領界をドンキホーテの如く彷徨しながら風車を相手ではなく工場を相手に戦った芸術の騎士たちであった」と述べる。(F.66.24)

110 H.E. リード『断想、多彩な衣裳』ジョージ・ラトリッジ・アンド・サンズ 1945刊 初版

**Read, Herbert Edward, Sir**

**A Coat of many colours: occasional essays/by Herbert Read. London; George Routledge & Sons, 1945. viii, 352p.; 18cm**

詩人・批評家であるリードの70篇あまりのエッセイを集める。ラスキン、モリスへの言及あり。

111 クライヴ・ベル『19世紀絵画の道しるべ』チャトー・アンド・ウィンダス 1927刊 初版

**Bell, Clive**

**Landmarks in nineteenth-century painting/by Clive Bell. London; Chatto & Windus, 1927. xv, 214p., 19 leaves of plates: ill.; 23cm**

クライヴ・ベルはブルームズベリー・グループの画家ヴァネッサ・ベルの夫となった美術・文芸評論家だが、本書はベルが『新評論』、『ザ・バーリントン』、『ザ・ネイション』などの諸誌に発表した諸論文を再録したもの。新古典主義復活から印象派の終息までの絵画の重層的動向を、具体的にはダヴィッドからセザンヌまでを論じた。ラファエル前派については「説教的パンフレット論者、二流詩人群、矮小歴史家にして、画家にあらず」と断じた。(F.70.24)

112 クエルティン・ベル『新しい高貴な絵画の流れーラファエル前派の画家たち』マクドナルド 1982年 初版

**Bell, Quentin**

**A New and noble school: the Pre-Raphaelites/by Quentin Bell. London; Macdonald, 1982. 192p., 16p. of plates: ill.; 25cm**

ラファエル前派の芸術活動の誕生とその成功、衰退そして再生の軌跡を検証する。著者のQ.ベルはクライヴ・ベルとヴァネッサ・ベルの次男、ヴァージニア・ウルフの甥であり、著述家としてブルームズベリー・グループに関する著作を多数著わした。書名はラスキン著『ラファエル前派主義』(1851)(展示No.1)の一節からの借用。

- 113 マイク・ウォーヴァー『ジュリア・マーガレット・キャメロン 1815～1879』ハーバート 1984  
刊 初版

Weaver, Mike

**Julia Margaret Cameron 1815-1879/by Mike Weaver. London ; Herbert, c1984. 160p. : ill., ports. ; 25cm**

ジュリア・マーガレット・キャメロンはヴィクトリア朝を代表するほとんど伝説的な女流写真家。セアラ・プリンセスの姉。アランデル・ソサイアティを通じてラファエル前派との交際が始まり、上流著名人の多数の貴重な肖像写真をのこした。ワイト島のキャメロン夫人の屋敷「フレッシュウォーター」はハントやワッツなどが厚遇をえたサロンであった。

- 114 ダグラス・ゴールドリング『ラファエル前派の最後の人 - フォード・マドックス・フォードの生涯』マクドナルド 1948刊 初版

Goldring, Douglas

**The Last Pre-Raphaelite : a record of the life and writings of Ford Madox Ford/by Douglas Goldring. London ; Macdonald, 1948. 288p., 11p. of plates : ports. ; 22cm**

F.M. フォードは1939年没の詩人・小説家・批評家で、F.M. ブラウンの娘キャサリンがドイツ生まれの音楽家ヘファーと結婚してもうけた第一子である。ラファエル前派の画家たちとの交遊録としても読める評伝。なおF.M. フォードは1919年改姓するまでは、F.M. ヘファーと名のっていた。(F.77.63)

- 115 W.E. フリードマン『ラファエル前派主義 - 批評的書誌的研究』ハヴァード・ユニヴァーシティ・プレス 1965刊 初版

Fredeman, William Evan

**Pre-Raphaelitism : a bibliocritical study/by William E. Fredeman. Cambridge, Mass. ; Harvard University Press, 1965. xix, 327p., 4 leaves of plates : ill ports. 25cm. Based on thesis, University of Oklahoma, 1956**

刊行からすでに30年以上もたち、その間ラファエル前派への関心のあらたなたかまりから、おびたしい点数の研究書、画集、書簡・日記などが公刊されているにもかかわらず、依然として本書はその周到・精細な資料的価値を失っていない。本展でも展示図書の解説末尾に分類番号(F.〇〇)を付記した。